

製品名: MLK1/2 (リン酸化 Thr312/266) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05027

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC, IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | MAP3K9/MAP3K10 |
| 別名 | MAP3K9; MLK1; PRKE1; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 9; Mixed lineage kinase 1; MAP3K10; MLK2; MST; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 10; Mixed lineage kinase 2; Protein kinase MST |
| 遺伝子 ID | 4293/4294 |
| SwissProt ID | P80192/Q02779 |
| 免疫原 | 抗血清は、Thr312/266 のリン酸化部位周辺のヒト MLK1/2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330 |

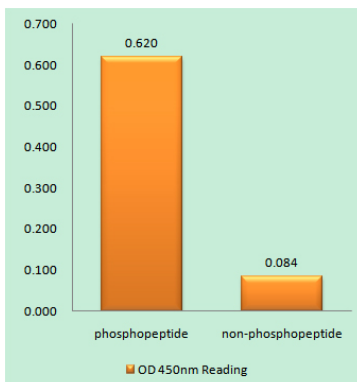
背景

触媒活性: $ATP + \text{タンパク質} = ADP + \text{リン酸化タンパク質}$ 。補因子: マグネシウム。酵素調節: ロイシンジッパードメインを介したホモ二量体形成は、自己リン酸化とそれに続く活性化に必要である。機能: JUN N 末端経路を活性化する。PTM: 活性化ループ内のセリンおよびスレオニン残基の自己リン酸化は、酵素活性化に関与する。Thr-312 が主要な自己リン酸化部位であると考えられる。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼ キナーゼ キナーゼ サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1 つの SH3 ドメインを含む。サブユニット: ホモ二量体。組織特異性: 結腸、乳房、食道起源の上皮腫瘍細胞株で発現。触媒活性: $ATP + \text{タンパク質} = ADP + \text{リン酸化タンパク質}$ 。補因子: マグネシウム。酵素調節: ロイシンジッパードメインを介したホモ二量体形成は、自己リン酸化とそれに続く活性化に必要。機能: JUN N 末端経路を活性化します。PTM: 活性化ループ内のセリンおよびスレオニン残基の自己リン酸化は、酵素活性化に役割を果たします。Thr-312 が主要な自己リン酸化部位であると考えられます。類似性: MAP キナーゼ キナーゼ キナーゼ サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1 つの SH3 ドメインを含む。サブユニット: ホモ二量体。組織特異性: 結腸、乳房、食道起源の上皮腫瘍細胞株で発現。

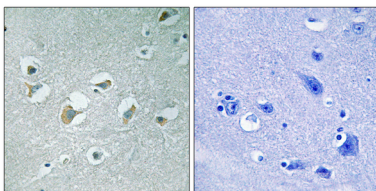
研究分野

アクチンダイナミクスの制御; SAPK_JNK; 幹細胞経路; B 細胞抗原

画像データ



MLK1/2 (リン酸化 Thr312/266) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



MLK1/2 (リン酸化 Thr312/266) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。